

大学図書館に 「今」求められているもの

安達 一寿

十文字学園女子大学

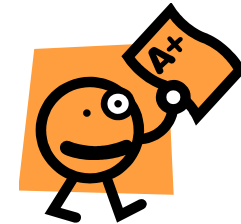
京都大学会場 2008年10月 7日(火)

東京大学会場 2008年11月10日(月)

今日の話の流れ

- **初等中等教育の状況は？**

- これからの時代に求められる力
- 学習指導要領の改訂
- 教育情報化推進の状況



- **大学改革の状況**

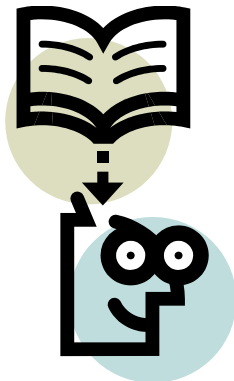
- 大学生き残りの時代の取り組み
- 基礎学力と図書館利用教育

- **情報リテラシーをどう捉えるか**

- アメリカの状況
- 情報教育と情報リテラシー
- これから先に求められるもの

- **新しい利用者を迎えるにあたって**

- 図書館の役割と必要とされることは？
- 図書館の環境整備に必要なことは？
- 組織の中の図書館としての役割は？
- 教育・関係機能をどう考えていくか？



初等中等教育の状況は？

これからの時代に求められる力
学習指導要領の改訂
教育情報化推進の状況

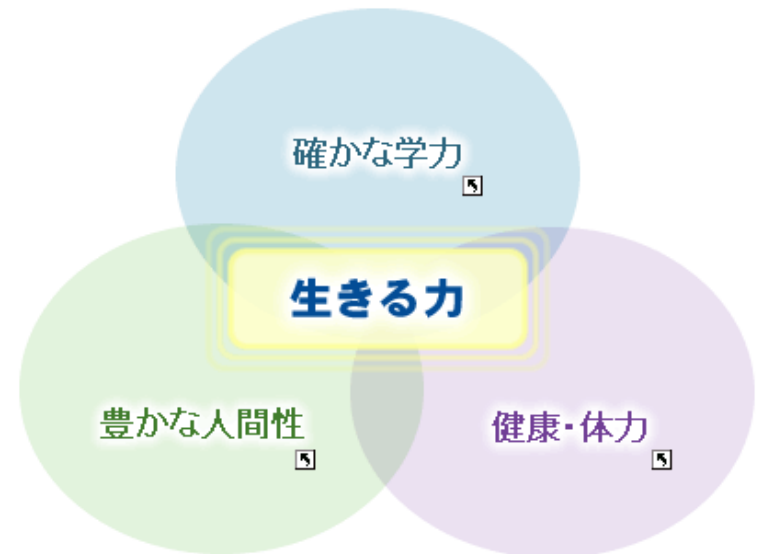
これからの時代に求められる力

－文部科学省－

- 「生きる力」とは

- － 確かな学力
- － 豊かな人間性
- － 健康と体力

三位一体的形成が不可欠



絵：文部科学省

- 「確かな学力」とは

- － 習得－基礎的な知識・技能
- － 活用－自ら考え(思考), 判断, 表現
- － 探求－学習に取り組む意欲

学習指導要領の改訂(小・中学校)

- 「生きる力」をよりいっそうはぐくむこと
 - 「ゆとり」か「詰め込み」か？ ⇒ どちらでもない

＜我々の世界＞を生きる力

＜我的世界＞を生きる力

両方の基盤作りを学校で責任を持ってやる

- 教科構成は変更無し
- 内容は少なからぬ変更あり

大学では数年先に
入学生を受け入れる
ことになる

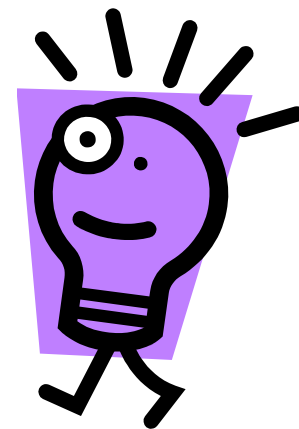
IT新改革戦略

- 平成18年1月 IT戦略本部
- 2010年に向けての改革の方針
 - 持続的発展が可能な自立的で、誰もが主体的に社会の活動に参画できる協働型のIT社会
 - 医療、生活、産業などさまざまな分野の情報化の方向性に触れている

教育内容の充実

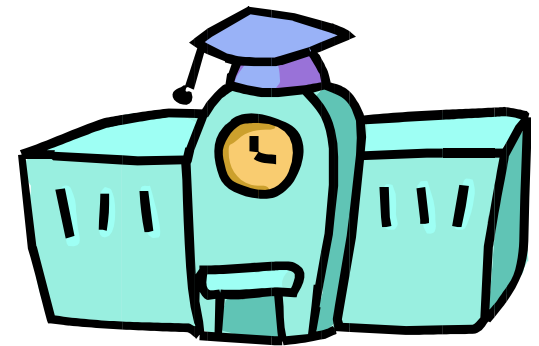
－主な改善点－

- ・ 小・中・高各学校段階を通して
 - － 各教科や「総合的な学習の時間」
 - － コンピュータやインターネットの積極的な活用
- ・ 中学校
 - － 「技術・家庭」の情報に関する内容の必須化
- ・ 高等学校
 - － 普通教育に情報科を新設・必修
 - － 2003年度入学生より
 - － 2006年度には大学へ



学校は変わろうとしている

- メディアが当たり前のように利用できる学校
 - コンピュータ・インターネット 校務処理の効率化
 - 教員はどうか？ そこで育つ子ども達は？
- 学校の裁量により自由な活動ができる
 - 学校選択制
 - 特色作り 学校情報の発信
- 地域との連携強化
 - 総合的な学習への地域人材の登用
 - 地域からの要請にどう答えるか



大学改革の状況

大学生生き残りの時代の取り組み
基礎学力と図書館利用教育

大学生き残りの時代の取り組み

- 大学改革・ファカルティディベロップメント
 - 特色ある大学(研究, 教育) 第3者評価
 - 学部再編, カリキュラム改革, 授業評価・授業公開
 - 施設・設備環境の拡充
- 情報化への対応
 - 事務情報の統合化(グループウェアなど)
 - 教材のオープン化と共有→e-learningへ



UNIVERSITY

図書館はこれらの取り組みにどのように関与しているか

学生の品質保証

- 社会のニーズに合っているか？
 - 大学の存在意義の再考
 - 教育なのか研究なのか
 - 既得権 存続する部分と柔軟に対応する部分
- 学生に付加価値を与えるために
 - サービス, サポートの体制

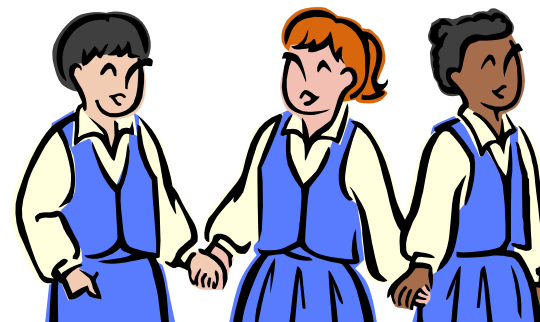


組織としての連携, 情報の共有が鍵

変わる学生への対応

- 基礎的情報処理関連科目

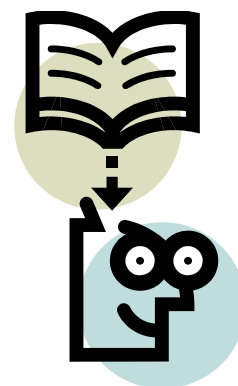
- 昔は、電源の入れ方からみんな一緒に
- 今は、それぞれのスキルに応じて



- ✓ 高校までの経験に差がある
- ✓ 家庭での情報環境にも差がある
- ✓ 必要とする教育に関しての教員の温度差

基礎学力と図書館利用教育

- 大学入学前教育
 - 基礎学力を定着させる
- 新入生セミナー, オリエンテーションなど
 - 大学での学び方を学ぶ
- 情報処理基礎教育
 - コンピュータは操作できる
 - なんとなく検索もできる



これら基礎教育と図書館利用教育の関係は？

図書館利用教育の内容・方法

- 利用者の情報リテラシー習得の支援
 - － 意義の再確認－生涯学習，情報教育との関係
 - － 実施主体と連携－利用者の立場に立つ
 - － カリキュラム開発－体系化と利用者の状況
- ✓ 単に図書館のリソースが使えるばよい
ということではない
- ✓ 図書館に対する社会的・時代的な
要請は？



情報リテラシーをどう捉えるか

アメリカの状況

情報教育と情報リテラシー

これから先に求められるもの

アメリカの動きは？

- No Child Left Behind Act of 2001

- テクノロジーによって
もたらされる教育で
「ひとりの子どもも
置いてきぼりにしない」

- Vision2020

- 2002年 米商務省
2020年頃の教育環境の予測



アメリカの動きは

ISTE標準情報教育カリキュラム

- Technology-Capable Kids
(情報に長けた子どもたち)
 - 情報技術に長じた利用者
 - 情報の探索者、分析者、評価者 . . .
 - 問題解決や意思決定に使える人
 - 創造的で効率的な人で知的な生産の道具に使える人
 - コミュニケーション上手で、協調活動ができて、
文書発行ができて、創り出すことのできる人
 - 情報通で、責任感があって市民として貢献できる人

図書館での教育
に関係する
か？



情報教育の目標

- **情報活用の実践力**

- 課題や目的に応じて情報手段を適切に活用することを含めて、必要な情報を主体的に収集・判断・表現・処理・創造し、受け手の状況などを踏まえて発信・伝達できる能力

- **情報の科学的な理解**

- 情報活用の基礎となる情報手段の特性の理解と、情報を適切に扱ったり、自らの情報活用を評価・改善するための基礎的な理論や方法の理解

- **情報社会に参画する態度**

- 社会生活の中で情報や情報技術が果たしている役割や及ぼしている影響を理解し、**情報モラルの必要性や情報に対する責任**について考え、望ましい情報社会の創造に参画しようとする態度



新しい情報リテラシー

－これまでのまとめ－

- 将来の「社会人像」の中で情報に関連する部分
 - － 情報コミュニケーション力
 - 国内でも、海外の人とでも、メールで頻繁・適切にやりとりできて、人間関係を大切に継続できる人
 - － 情報アクセス力
 - その時に必要になった情報を即座に探し出せる人
 - － 情報表現力
 - 根拠をもって発言・発信できる人
 - － 情報構成力・情報表現力
 - 情報の受け手の立場に立って、わかりやすく適切に表現できる人
- 情報社会に必要な新しいリテラシーを育てる教育
 - － 情報を収集し、見抜き、正確に判断し、そして相手にきちんと届くように伝える、一連の力

新しい利用者を迎えるにあたって

図書館の役割と必要とされることは？
図書館の環境整備に必要なことは？
組織の中の図書館としての役割は？
教育・関係機能をどう考えていくか？

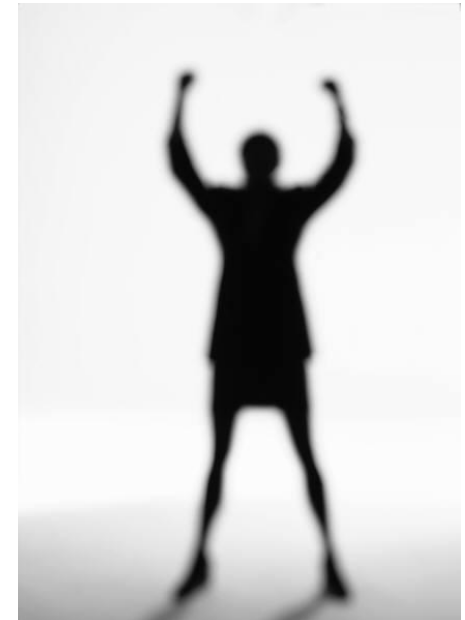
議論が必要な課題

- 人が生涯にわたって培われるべき力の支援
 - 情報リテラシーなど 構造を明らかにする
- 図書館がどのように共通の目標を持って連携・実施・実行するか
- 具体的な方法としてモデル化できるか
- それで、利用者のサービスが実現できるか

是非皆さんのご意見をお聞かせください

新しい利用者像

- コンピュータの操作はできる
 - 経験はある 情報に長けていると言えるか？
 - 適応場面に応じた利用法はわかっているか？
- 大学・社会で要求するのは
 - 自立的な学習ができる
 - 研究場面で発揮してほしい
 - 現実の問題解決のための方法を持っている人材



図書館の役割・環境整備

- 情報リテラシー教育を支援する立場
 - カリキュラムへの関与
 - 教育機会の提供
 - もう一歩踏み込んだ対応を考えたい
- 利用者のニーズに応じた支援
 - 図書館員に求められる能力
 - 新しいリソースのあり方とITに対する環境整備
- 新しい時代に対応したサービス
 - デジタルアーカイブ
 - ポータル, 情報検索の高度化



組織の中で連携を

- 大学図書館では
 - 情報リテラシー教育担当との連携
 - 情報管理部門との連携
 - 目に見える形でのサービス
- **情報・メディアの最前線基地**としての自覚と役割



「こんな利用者であってほしい」
より積極的な視点で考えましょう